



令和7年度 朝日町立西五百川小学校だより

ポ プ ラ



第8号 令和7年12月16日

校長 清野 雅紀

「花は心 種はわざ」^{ふうしかでん ぜあみ} 風姿花伝(世阿弥)

風姿花伝は、室町時代に、能を大成した世阿弥によってまとめられた能楽の理論書です。500年もの長きに渡り、観世流の秘伝書として門外不出の書でしたが、1909年に発表され、世に広く知られるようになりました。能の演劇的・芸術的な理論と同時に、芸の修行論、後継者の育成論としても深い内容を含んでいます。

「花」とは、観る人の心を引きつける魅力や感動、つまり芸の生命。相手に伝わる印象や感動。教育においては、教科などの本質・価値、学ぶ意義、学ぶ楽しさといえるでしょう。「種」とは、「花」を咲かせるための技術や稽古の積み重ねです。芸の基礎となる「型」や「わざ」がなければ、心の花も咲きません。「種」は「花」の要素や原因とも言えます。すなわち、花の美しさや完成形を知りたいなら、まずその源、すなわち「種」を理解せよ、という意味です。けれども、技だけがあっても心が伴わなければ、それは真の花ではないのです。11月26日(水)の全校朝会で、「花は心 種はわざ」を題材に校長講話を行いました。その一部分を紹介します。

2年生は、かけ算九九をがんばって覚えているところですね。九九は、最初は難しく感じることもあります。がんばった分だけ「できた！」がふえていきます。心の中で、「九九を全部言えるようになりたい！」という立派な「花のつぼみ」があります。そのつぼみを咲かせるには、「がんばるぞ」という心をもつことです。それから、今度は「わざ」を使う。例えば、声に出して練習する、苦手な段をくり返す。友だちやおうちの人に聞いてもらう、ということです。なかなか覚えられなくて、くやしい日もあるかもしれません。だけど、一度に全部できなくていいんです。花も、1日で咲くわけではありません。毎日の一つひとつのがんばりこそ、一番大切な「種まき」です。九九をしっかりと言えるようになると、算数がもっと楽しくなります。

3・4年生は、体育で跳び箱に取り組んでいます。跳び箱の花は、「もっとうまくなりたい」「開脚跳びをきれいにとびたい」「台上前転に挑戦したい」という願いです。この花を咲かせるためには、「わざ」を覚えなければなりません。開脚跳びの「わざ」とは、例えば、両足で踏切板を強く踏む、両手をしっかり前につく、お尻を高く上げる、膝を使ってふわっと着地するなどです。そして、できなかつたらもう一回やってみる、自分の動きを先生に見てもらう、上手な人の動きをよく観察するという努力も大事な「わざ」です。こうした一つひとつの小さな「わざ」が、開脚跳びの花を咲かせるための「種」になります。「こわいな…」「できるかな…」と思う気持ちが出てくることもあります。それはとても自然なことです。大切なのは、「やってみよう」という心を忘れないこと。そしてその心に、くり返しの練習という「わざ」を積み重ねること。心とわざがそろったとき、みなさんの跳び箱の花は、きっと大きく、力強く咲きます。

6年生はこれから、社会科で「明治の国づくりを進めた人々」について学びます。その時代、

日本は大きな決断をしようとしていました。その中心にいた人たちは、今のみなさんと同じように、「もっとよい国にしたい」「世界に負けない力をつけたい」という大きな思いをもっていただわれています。その思いこそが、「花は心」です。しかし、心だけでは国は変わりません。明治の人たちは、その心を実現するために、色々なことを考え、たくさんの努力と行動を積み上げました。これが、「種はわざ」です。明治の国づくりも同じで、理想という「花のつぼみ」があって、それを実現するための「わざ＝政治や社会の仕組みをつくり変えたこと」がありました。その積み重ねが、今の日本につながっているのです。では、みなさんの学習に置きかえるとどうでしょうか。これからの授業で、みなさんの中にはきっと、「どうして明治の改革は必要だったのだろう」「どんな苦労や工夫があったのかな」という「心＝花のつぼみ」が生まれてきます。そのつぼみを咲かせるのは、資料を読み、比べ、考え、まとめるというみなさんの「わざ」です。わからないところに気づき、さらに調べようとすることも、大切な「わざ」です。心とわざがそろったとき、みなさん自身の中で、歴史を理解する大きな「花」が咲くはずですよ。

学習発表会 ～思いを伝える～

11月21日（金）、日頃の学習の成果を発表する学習発表会を行いました。

全校発表

群読「おとなマーチ」作：阪田 寛夫

合唱「Smile Again」作詞・作曲：中山 真理



1・2年 音読劇「くじらぐも」



1年生の国語教科書の「くじらぐも」に、子どもたちがそれぞれ考えたセリフをつけ加え、音読劇を作りました。元気いっぱいのセリフ、歌、動き、身体全部を使っての発表は素晴らしかったです。劇中の縄跳びもみんな上手で、特に2年生は、さすが上の学年、スムーズな技でした。途中で、セリフが止まりそうになるとそっと教えてくれる姿がありました。全部のセリフや流れが頭に入っていないとできないことです。

3・4年 歌と合奏 「6人のチャレンジコンサート」



音楽の時間に学習した、鍵盤ハーモニカの演奏「いいことありそう」、リコーダーの演奏「オーラリー」「あの雲のように」「アチャパチャノチャ」、合奏「茶色のこびん」。どの曲も、一人ひとりが正確に、丁寧に演奏できました。「Believe」の合唱もすてきな歌声でした。3・4年生は全部で6人、人数が少ないのですが、きれいなメロディーが響きました。そして、総合的な学習の時間で「水の学習」をして、「松程新堰」「上郷ダム」についても、わかったことをポイントを抑え、わかりやすく発表していました。

5・6年 劇「お米の神様」



総合的な学習の時間で、「米づくり」の学習を進めてきました。さらに、5年生は社会科の時間にも「米づくり」について学んだり、理科では「植物の発芽と成長」を学んだりもしてきました。これらを生かし、自分たちで発表スライドを作り、劇に仕立てて発表しました。「一粒米には七人（七柱）神様が宿る」と言われていますが、5・6年生は、五人（五柱）の神様がいて、オリジナルの劇で発表しました。

